

令和7年度 県立社高等学校 学校評価

●スクール・ミッション

「誠実 協調 創造」の理念のもと、基礎的な知識・技能、論理的・批判的に考え判断する力、奉仕や貢献の気持ちを大切に、多様な人々と共に活動する力を備え、なりたい自分になるためにグローバル社会で活躍できる人材を育成する。

育成をめざす資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)

●生活科学科

- ① 生活に関する知識及び技能を意欲的に習得することができる生徒を育成する。
- ② よりよい生活の実現に向けて、主体的に生活を工夫し創造しようとする生徒を育成する。
- ③ 仲間と協力し、生活の課題を見だし、地域の課題解決に取り組むことができる生徒を育成する。
- ④ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築にむけて、積極的に地域社会に参画できる生徒を育成する。
- ⑤ 地域交流を通じて、他者に対しての思いやりや、多様な価値観を受け入れる心を育てる。

●体育科

- ① 将来の、体育・スポーツの指導者を養成するため、必要な専門知識や技能の習得
- ② 部活動における専門的な知識や技能を習得し、全国大会優勝、出場を目指す。
- ③ 学んだ知識や技能、資質を地域や学校に還元できる能力の育成。

●普通科

- ① 基礎・基本的な知識や技能及び論理的思考力、語学力の習得に励み、目標とする進路を粘り強く切り拓く資質や能力を身につけた生徒を育成する。
- ② 自らの特長や能力を最大限に発揮し、なりたい自分になるための実現に向けて主体的に努力を継続できる生徒を育成する。
- ③ グローカルな視点から地域社会の課題を整理し、仲間と協働で課題の解決に取り組み、将来、国際的に又は地域社会で活躍しようとする生徒を育成する。
- ④ 多様な価値観を理解しながら思いやりの心を持ち、共生社会で活躍できる生徒を育成する。
- ⑤ (看護医療類型は加えて) 看護・医療の役割や必要性を自覚し、看護医療の専門職としての知識や技能の習得に務め、進んで地域社会で貢献しようとする生徒を育成する。

令和7年度努力目標・実践目標について

令和7年度の努力目標は、

- I キャリア教育(進路指導)の充実
- II 生徒学力の向上
- III 広報活動の充実と地域との連携推進
- IV 部活動・生徒会活動の充実
- V 心身の健康への適切な対応の充実

の5つの視点から整理した昨年の取組を更に充実させる方向で見直しを図っている。

それぞれの年度努力目標ごとに、現状とありたい姿について全職員で話し合い、共有化を図る。実践目標については、昨年度の成果と課題をふまえて、担当部署ごとに整理する。

また、PDCAサイクルで学校改善が進むようにするために、スケジュール指標・活動指標・成果指標など、実践目標に応じて数値化できるものはできるだけ数値化する等、きめ細かく評価指標を設定する。

とりまとめ担当部署

- ①キャリア教育の充実→進路指導部
- ②学力の向上→教務部
- ③広報活動の充実→総務管理部
- ④部活動・生徒会活動の充実
→生徒指導部
- ⑤心身の健康への適切な対応の充実
→保健部

◆評価点について

A(5点)B(4点)C(2点)D(1点)としたときの
の平均値

◆総合評価について

平均4.1以上…A 3.6以上…B
平均3.1以上…C 2.6以上…D
平均2.5以下…E

努力目標 I		実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
キャリア教育の充実 (進路指導)		具 体 的 な 取 組	学年進路 進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・部会を学期に1回は実施し、学年進路行事や進路についての情報交換を行い、進路指導部から有意義な情報を提示しているか。 ・各学年で早期に平常及び長期休業中の補習や学年の進路行事を計画し、職員会議に提示しているか。 ・3年生対象の面接対策、小論文対策を教職員が協力して実施しているか。また、そのスキルを向上させるための情報提供ができていないか。 ・生徒が利用しやすいように進路指導室の環境を整えているか。 ・各学年で実施する模試を有効に活用できているか。 	4.1 A	(成果) <ul style="list-style-type: none"> ・全職員による面接・小論文指導体制をとることができた。 ・平常補習や長期休業中の補修について、各学年で計画的に実施できた。 ・学年主体で進路ガイダンス等の教育活動を計画的に実施できた。 (次年度に向けて) <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も計画的な指導を継続して行う。キャリアパスポートを有効活用する。 ・学年進路係を通じて専門部—各学年の更なる連携を目指す。 ・学校全体での取り組みは進路指導部の企画により学年が取り組むようにする。 ・進路指導部を中心に年間の進路行事を再確認・方策を整理する。進路ホームルームで共有できるデータを蓄積する。
						(現状) インターンシップや体験学習の充実など、キャリア意識の醸成に寄与する種々の取り組みが実施されている。一方、3年間を見通した進路指導のあり方をもとに一般選抜まで頑張る雰囲気を持続させ、進路に対して早期の意識づけと基礎力をつけるために1年時よりの学習への取組を徹底さ
(ありがたい姿) 様々な進路の中から、自分に最も適した進路を能動的に模索し、将来どのような形で社会と関わり貢献できるかを考えることのできる生徒を育成する。また、その実現のために、粘り強く最後まで学習を続けることができる生徒および互いに高めあうことができる生徒集団を育成す	(現状) インターンシップや体験学習の充実など、キャリア意識の醸成に寄与する種々の取り組みが実施されている。一方、3年間を見通した進路指導のあり方をもとに一般選抜まで頑張る雰囲気を持続させ、進路に対して早期の意識づけと基礎力をつけるために1年時よりの学習への取組を徹底さ					

る。	せることが課題である。		<p>(3) 学びの原動力・推進力となる体験学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高大連携を推進し、計画的に大学見学会や分野別模擬授業などに取り組む。また、産学連携を推進し、インターンシップ、職場訪問など体験学習の機会、および事前事後指導を充実させる。 ・体育科や生活科学科については、トップアスリートやスペシャリストから直接指導を受ける機会を充実させる。 	<p>進路指導部</p> <p>学年</p> <p>生活科学科</p> <p>体育科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携について、大学見学会や進路ガイダンスで模擬授業等の体験ができているか。 ・就職希望者のインターンシップを就職指導の一環として有効に実施しているか。 ・生活科学科、看護医療類型において、その専門性を生かしたインターンシップを実施しているか。 ・専門学科では、「ひょうごの達人」招聘事業や魅力アップ推進事業などを活用して、本物に触れる機会を充実させているか。 	<p>4.1 A</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップや講師招聘事業、県立高校魅力アップ推進事業など多くの活動を実施することができた。一方で、看護医療類型に関する活動も第1学年の大学見学および第2学年でのインターンシップについて実施できた。 (次年度に向けて) ・来年度以降も地域との連携事業を積極的に推進する。 ・継続した指導が可能となるよう、学年、専門部や総合的な探究委員会と協力を図りながら、計画的に事業を進める。 ・3年間を見通した進路指導計画を策定する。
努力目標Ⅱ			実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
生徒学力の向上		具 体 的 な 取 組	<p>(1) 教職員の教科指導力の向上</p> <p>生徒の興味と意欲を高める「わかる授業」作りのために、計画的に公開授業や研究授業に取り組む。</p> <p>定期的に生徒による授業評価アンケートを実施し、授業改善に役立てる。</p> <p>高大接続改革をふまえて、生徒の主体的・協働的な学びを授業に取り入れる。</p>	<p>学力向上推進委員会</p> <p>教務部</p> <p>各教科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を実施したか。 ・各教科で年間1回は授業研究会を実施しているか。 ・各教員が、年間1回は公開授業を実施しているか。 ・各教員が、年間1回は生徒による授業評価アンケートを実施し、それを分析して授業改善に役立てているか。 ・全科目シラバスと評価規準を作成できたか。 	<p>4.0 B</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール（公開授業）を実施した。のべ100名ほどの保護者・教育関係者が来校され生徒の学習活動を見学し、貴重な意見をいただいた。 ・探究活動にタブレットを活用し、情報収集や発表原稿を作りが大きく進展した。 ・観点別評価の意識が高くなり、生徒へ還元されている。 (次年度に向けて) ・研究授業を計画的に行い、授業実践の共有をはかり、教科指導向上を目指す。 ・IT機器やタブレットの活用について、研修を深め、活用していく必要がある。 ・IT機器の充実を図る。
<p>(ありがたい姿)</p> <p>目標とする進路実現に必要な基礎・基本的な学力を身につけるために、積極的に意欲的に学習に取り組むことができる生徒を育てる。</p>	<p>(現状)</p> <p>平日の平均家庭学習時間は、1・2年生の約8割が2時間未満という現状、基礎・基本的な学力が身につけている生徒が少ない。</p>		<p>(2) 学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習規律を確立し、生徒が真摯な態度で、授業に取り組むようにさせる。 ・ポートフォリオの活用について研修を重ねていく。 ・生徒の学習活動の改善に向けて、自学自習の能力を高めるための指導法について考えていく。 	<p>学力向上推進委員会</p> <p>教務部</p> <p>各学年</p> <p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の家庭学習時間について、2時間以上の割合が40%以上。 ・計画的に週末課題が課せられているか。 ・1・2学期末に生活実態及び学習状況調査を実施し、分析結果を指導に役立てているか。 	<p>2.7 D</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に長期休業中や週末課題が課されたが、それが生徒の学習習慣の確立に結びついていない。生活実態調査では平日の自宅での勉強時間が1時間以内の者が約8割と変わらずである。学校での学習は好意的にとたえている。 (次年度に向けて) ・生活実態調査の結果を分析や、生徒活動を観察し、生徒指導や教科指導に役立てる。

<p>さらに、学力を伸長させるため、放課後や長期休業中の補習に積極的に参加し、計画的・主体的に学習できる生徒を育てる。</p>	<p>各学年で、週末課題を課したり、放課後に学力の伸長を図るための希望者補習に取り組んだり、長期休業中には普通科生徒に対する全員補習や希望者補習を実施している。</p>	<p>(3)模擬試験や資格試験の活用 定期的に模擬試験等を受験させ進路意識の向上を図る。模擬試験等の受験後の振り返り(解き直し・復習)を習慣づけ、苦手分野の克服に努めさせる。 英語検定や漢字検定、数学検定、情報処理検定などの各種検定試験を校内で実施し、資格の取得を奨励する。</p>	<p>学力向上推進委員会 進路指導部 各学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に校内模試を実施し、受験結果について専門家を招聘して分析し、その結果を学年内や教科で共有しているか。 年間に、英検、漢検は2回以上、その他の検定は1回以上校内実施するように計画する。 検定合格に向けて、補習を計画的に実施する。 英検・漢検以外の検定については、積極的に受検を促し、学習意欲向上につなげているか。 	<p>3.6 B</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内模試や英検・漢検の校内実施は計画通り行うことができた。 英検受験に向けて学年全体で取り組んだので、多くの生徒が受検をして、成果を上げた。 (次年度に向けて) 模試や検定だけでなく、コンテスト等の応募を積極的におこなう環境をつくる。 生徒個々に目標をもたせるような取り組みを考える。 模試の復習や振り返りを積極的に活用する。
<p>努力目標Ⅲ</p>	<p>実践目標</p>	<p>主担当</p>	<p>評価指標</p>	<p>総合評価</p>	<p>今年度の成果と課題</p>	
<p>広報活動の充実と地域との連携推進</p>	<p>(1)各種通信及びホームページの充実 各種通信は毎月1回以上の発行を目指し、ホームページに掲載する。また、ホームページの更新回数を増やすとともに内容の刷新を図る。</p>	<p>各学年 各学科 総務管理部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各通信は毎月1回以上発行しているか。 ホームページは現状に合わせた最新の情報をアップデートできているか。 行事の記録なども含め、常に新しい情報を発信出来ているか。 	<p>3.9 B</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページや学年通信、各種通信、やしろ嬉野で学校の必要な情報をコンスタントに発信できた。生活情報科によるInstagramの活用が行われた。 (次年度に向けて) 次年度も継続的に発信する。 検討課題として、部活動のページで、大会速報などの掲載を要望される声があったが、現実には難しいところもあり、実施できなかった。今後は、生活科学科だけでなく、部活動ごとのSNSの利用などを考えていきたい。 	
<p>(ありたい姿) 常にタイムリーで新しい社高校の姿を発信し、保護者や地域の方から信頼されるとともに、学校の基本情報や行事・部活動の様子など、中学生が進路選択をする際に、社高校を正</p>	<p>(現状) ホームページは定期的に更新できている。 生徒会で作成した学校紹介ビデオなどのように、生徒目線の情報の発信が求められる。 オープン・ハイスクールでは生徒を活用した</p>	<p>(2)オープン・ハイス쿨の効果的な運営 毎回、異なる視点で開催し、本校のあらゆる活動を紹介できるように、全校を挙げて協同で運営する。生徒を前面に押し出した企画・内容で本校の育てたい生徒像を発信する機会とする。</p>	<p>生活科学科 体育科 総務管理部</p>	<ul style="list-style-type: none"> オープン・ハイス쿨ごとにプログラムの工夫をおこなっているか。 生徒を前面に押し出した運営になっているか。 全校を挙げて共同で運営し、来校する中学生や保護者に好印象を与える運営となっているか。 学校紹介ビデオやプレゼンの内容や構成はなるべく新鮮な素材を用いたものになっているか。 	<p>4.4 A</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> オープン・ハイス쿨では、本校の情報を中学生や保護者・先生方に伝えることができ、その内容については中学生・保護者とも好印象を持たれている。 体育科で参加生徒のわずかな減少が見られたが、総数では、生徒、保護者とも参加数が増え、例年同様、本校に対する関心の高さを感じている。 今年度の課題に挙げていた学校ムービーも生徒会の協力の下、刷新することができた。毎年、その年のバージョンが作成できたらと考えている。

<p>しく理解できるような情報を充実させ、入学したい高校として好感度を高めることをめざす。また、情報発信を踏まえた地域と学校の連携に取り組む。</p>	<p>運営ができ、成果が上がっている。オープン・スクールにおいては参加者を増やす様々な工夫が必要である。各科、類型における地域連携は充実しており、普通科生徒が地域と連携する機会を多くする必要はある。</p>				<p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科 OH については、学校紹介ムービーが好評である。今年度も生徒会と協力して、更にバージョンアップを図りたい。 ・個人申込も2年目となり、今年度は、秋のオープン・ハイスクールから、全く中学校を通さないでの実施となった。しかし、夏に関しては、事前に参加講座などの連絡が必要で、それをどのようにしていくかが課題である。参加者情報の提供のあり方は、まだまだ検討していく必要はある。また、第3学区とそれ以外では、記号で情報提供の在り方が違い、第3学区外の中学校は、FAXによる提供となっているので、方法を検討する必要がある。各中学校の対応・関心についても学校によってさまざまであり、整理が必要であると感じている。 	
		<p>(3) オープン・スクールの機会と内容の充実 授業公開や学校行事、合同発表会など、地域の方をはじめ大学関係者、企業等、多くの学校関係者に教育成果を見ていただく環境を整える。</p>	<p>総務管理部 教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間に参観している保護者・地域等の方々が増えているか。 ・体育科、生活科学科、看護医療類型において実施する課題研究発表会をオープン・スクールとして設定しているか。 ・3学科合同発表会を実施するための環境を整えるために、課題等が議論されているか。 	<p>4.4 A</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年以上に、多くの保護者や関係行政からの参加があり、本校の普段の教育活動への理解につながった。 ・オープン・ハイスクールは昨年以上の生徒・保護者の参加があり、本校を知ってもらういい機会となった。 <p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3科合同発表会を校内だけでなく、地域社会へ広げていく。
		<p>(4) 地域との連携推進 地域貢献事業や、ボランティア活動などを通じて、地域との連携を推進し、本校の特色ある各科や部の活動の様子を、さまざまな形で発信していく。</p>	<p>総務管理部 生活科学科 体育科 生徒指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高連携授業などをはじめ、地域連携が積極的に行われているか。 ・ボランティア活動を通じて、さまざまな方々との交流が行われているか。 ・防災訓練や校外清掃などを通じて、各地域団体との連携がなされているか。 	<p>4.6 A</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科の地域連携事業も昨年度よりさらに内容を充実させ実施することができた。 ・特に生活科学科では、ICT機器を活用した交流を増やし、DXハイスクールの準備期間とできた。 <p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の特色ある活動の一つとして、さらに地域連携を推し進めていく。 ・生活科学科は、DXハイスクールで導入された機器を使用した地域交流を進めていく。 ・他校の事例情報を収集し、地域連携事業を充実させる。

努力目標Ⅳ		実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
<p>部活動・生徒会活動の充実</p>	<p>具 体 的 な 取 組</p>	<p>(1) 部活動の充実 生徒・保護者が求める部活動のあり方、学校の特色としての部活動のあり方、また、政府が求める部活動のあり方について、すり合わせを怠ることなく、より良い部活動運営について生徒と教員が一致団結をして模索する。 また、生徒会が主体となり、従来の「入部率アップ」という考え方についても、その是非を考える。</p>	<p>学年生徒指導 生徒指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> 適切な部活動運営のため、計画的なノ一部活動デーの設定ができているか。 入部率の向上に努めているか。 また、それに相反する「働き方改革」「部活動外部委託化」「4号業務削減」等の動向が進行する中、「校内部活動」であることの意義について、生徒・教員の考え方が整理されているか。 競技力の向上に努めることが出来ているか。 	4.5 A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 入部率の向上に向けて、今年度も部活動紹介の後、見学期間・仮入部期間を設定する施策を実施した。 加東市子供たちを対象とした「部活動体験」の実施に際し、多くの生徒が協力することができた。 部員一人ひとりの「幸福度」が高まるよう、引き続き生徒との対話を重視する導きや運営が求められる。 <p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、教員の働き方改革・部活動の地域移行等の施策との矛盾についての考察を重ねながら、よりよい活動ができるよう、生徒支援のあり方を模索していく。 競技力の向上に努める。
		<p>(2) 生徒会活動・ボランティア活動の充実 新しい文化祭のあり方、体育大会のあり方を生徒会が中止となり考えていく。 また、各種ボランティア活動が可能となれば、積極的に取り組めるように環境を整える。</p>	<p>生徒指導部 (生徒会係)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各行事に於いて、生徒全員が参加でき、仲間と共に作り上げていくという経験ができる企画となっているか。 各種ボランティア活動参加が再開できたか。 1年生の「清掃ボランティア活動」の意義を生徒自身が理解することができ実施することができたか。 	4.2 A	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度も「文化発表会」の形式で実施したが、多くのクラスが舞台発表に取り組むなど、「参加型文化発表会」を実施することができた。 コロナ禍以降自粛していた模擬店も再開することができた。 1年生の清掃ボランティアは、先生方の指導の下、今年度も多くの生徒が積極的に参加した。 <p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会において、従来の「文化祭」の形式に戻すか否かの議論を継続していく。
		<p>(3) 委員会活動の活性化 美化委員会を中心とした校内環境美化活動、風紀委員会を中心とした生活習慣の向上、保健委員会を中心とした健康で安全な生活を送るための啓発活動など、各委員会がより良い学校環境づくりに努める。</p>	<p>関係部署 生徒会</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校内美化・風紀活動について、生徒会が主体となって取り組むことができたか。 風紀委員会を中心として、校則を順守する資質の涵養に努めることができたか。 文化委員会を中心として、文化発表会のあり方を再構築できたか。 スマートフォン、タブレット、スマートウォッチの取り扱いについて、規制の見直しが進んだか。 	3.6 B	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校則の一部見直しと、制服・通学カバン等の一部変更など、生徒指導部と生徒会（役員会・風紀委員会等）との連携を密にし、段階的に実施することができている。 挨拶運動は、各部活動や学科においては継続的に意識指導ができています。

(ありたい姿)
各種活動において自ら計画、活動ができるようありたい。またそれらの指示が生徒主導でありたい。
具体的には、部活動の入部率が上がり、生徒会行事や各種委員会の活動が活発に行われ、生徒が生き生きとした活気に満ちあふれた学校でありたい。

(現状)
ほとんどの生徒が時と場所に応じた行動・態度が取れているが、自主的な行動や主体性を持った活動というところまでは達していない。
部活動の入部率は年度当初は高くなっているが、その一方で年度途中の退部者も微増している。

						<p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃および整理整頓の意識と、制服の着こなし意識の向上を図る必要がある。 ・総合教育センター駐車場借用のあり方を生徒・保護者に常に提示する必要がある。 ・授業の開始終了時の挨拶のレベルの向上と、授業時間内に廊下を移動する際のマナーの向上が必要。 	
努力目標 V			実践目標	主担当	評価指標	総合評価	今年度の成果と課題
心身の健康への適切な対応の充実		具 体 的 な 取 組	<p>(1)教職員の専門性の向上と協働体制の構築</p> <p>生徒の内面理解に基づき、自己有用感を高めて、やる気を起こさせる指導を推進するため、カウンセリングマインド研修会等、教職員の専門性を高める研修会を計画的に実施する。</p> <p>また、今年度は養護教諭の複数配置に関する研究開発指定校1年目となり、研究計画および保健室運営について、よりよい人間関係作りを推進していく。</p>	<p>コーディネーター</p> <p>保健部</p> <p>特別支援委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談等に活用できる研修内容を計画し、教職員全体の資質・指導力の向上を図っているか。 ・全職員が、生徒情報を共有しているか。 ・特別支援教育委員会を中心にして、特別な支援を要する生徒に対して、組織的に指導・支援にあたれているか。 	<p>3.8 B</p>	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング研修会をおこない、職員の共通理解を深められた。 ・スクールカウンセラーによる教育相談が充実した。 ・1学期の職員会議で、配慮が必要な生徒の情報が共有できた。 ・校内の初任者研修で、不登校生徒への支援の仕方や、学級経営等をテーマに行った。チームとして取り組むことが大切だという共通認識を育んだ。 <p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な特別支援委員会を実施し、全職員による共通理解が必要である。
			<p>(2)中学校や保護者と連携した生徒情報の収集及び共有化</p> <p>入学までに中学校・保護者の協力を得て本校所定の様式である「パーソナルファイル」を作成する。また、日常的にパーソナルファイルを更新するとともに情報の共有化を進め、生徒の指導・支援体制を整える。</p>	<p>各学年</p> <p>体育科</p> <p>特部支援委員会</p> <p>保健部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生の出身校を中心とした中学校訪問など、生徒情報の収集に努めているか。 ・定期的な三者面談等、保護者との連携ができているか。 ・拡大学年会議を学期ごとに開催し、生徒の現状を常に共有化しているか。 ・パーソナルファイルの共有化によりきめ細かい生徒支援が行えているか。 		<p>4.0 B</p>
<p>(ありたい姿)</p> <p>教職員が専門性を向上させ、中学校や保護者、関係機関と連携協力しながら、組織的に個々の生徒の内面理解に基づき指導・支援にあたっている。</p> <p>生徒に、人権尊重の精神や共</p>	<p>(現状)</p> <p>本校に入学してよかった、学校生活が充実していると思う生徒、保護者は9割を超えている。反面、悩みを相談できる教職員がいるか、との問いかけに生徒13%、保護者の18%が「ど</p>						

<p>生の心・態度が育ち、自己有用感とやる気を持って、充実した学校生活を送っている。</p>	<p>ちらかといえ ば、そうは思わ ない、「そうは 思わない」と考 えている。パー ソナルファイル の共有はやや停 滞気味である。</p>	<p>(3) より良い人間関係、心を支える相談体制と外部との連携 人権 HR や人権講演会等、人権 感覚育成のための取組を充実さ せる。担任だけでなく、部活動顧 問、教科担当など、生徒との個人 面談の機会を充実させる。 また、いじめ未然防止について も全職員で取り組む。 「心の教育総合センター」との 連携を視野に入れる。</p>	<p>人権・国際理 解教育担当 者 特別支援教 育委員会</p>	<p>・人権 HR や講演会など、人権尊重の精 神を育てる機会は充実しているか。 ・生徒との個人面談の機会が充実してい るか。 ・特別に支援を要する生徒の指導につい て、全職員でかかわる体制が整っている か。 ・全職員でいじめ未然防止に取り組めて いるか。 ・「心の教育推進センター」と連携した 相談体制を構築することができたか。</p>	<p>3.9 B</p>	<p>(成果) ・各学年で、人権 HR や講演会を実施で きた。 ・担任と生徒との個人面談を、すべての 学年で学期に 1 度以上行っている。 ・いじめが疑われる事案が生じたときは、 学年と生徒指導部や保健部が協力して取 り組んだ。 (次年度に向けて) ・引き続き継続的に行う。 ・不登校支援を要する生徒への対応につ いて、マニュアルを構築すべきである。</p>
--	---	--	---	---	-------------------------	--